

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

越後 浅草岳—ヒメサユリの楽園—



浅草岳 (只見尾根から)

6月下旬、越後・会津国境の浅草岳(1580m)に出かけた。

前日は、守門岳(1538m)に登った後、国民宿舎浅草山荘に宿をとり、山菜料理を肴に越後の酒をしこたま堪能した。

翌朝、夜来の雨もあがり、宿の車で登山口のネズモチ平まで送ってもらった。

8時登山開始。雑木林の中の緩やかな登り道は、ここ数日の雨でぬかるみ、歩き難い。時折、薄暗い林の中の木の根方につつましやかに咲くギンリョウソウの姿に心が和む。



途中、増水した沢の何か所かの飛び石伝いの渡渉にすっかり胆を冷やした。

1時間程して道は急傾斜に

なり、岩をつかみ木枝にすがりながらの登りになる。最後に垂らされたロープにすがってルンゼを登り切ると、



雪溪のトラバース

ここで樹帯が尽きて突如視界が開け、10時10分、前岳に到着した。振り返ると、昨日登った守門岳の稜線が、目の高さには迫って見えた。

この前岳頂上付近にはシラネアオイが多い。気品に満ちた淡紅色の花が風にそよぐ様は、感動的ですからある。

前岳から雪溪をトラバース気味に登り詰めた後、ルートは自然保護のための木道となり、のびやかな草地の中を頂上へと伸びている。

木道の両側はヒメサユリが、今が真っ盛りだった。ピンクに彩られたヒメサユリ回廊をたどり11時半、浅草岳頂上に到着した。

一等三角点のある

山頂には、会津側を向いて立派な石祠が祀られ、遮るものもない展望が広がっている。



北には昨日登った守門岳や御神楽岳の彼方に飯豊連峰、吾妻連峰などの山並み、南には那須の山々から会津駒ヶ岳、燧ヶ岳、平ヶ岳、越後三山などが連なり、その手前には谷川岳の一ノ倉スラブにも似た鬼ヶ面山の岩壁が荒々しく迫って見え、眼下には田子倉湖が光り輝くなど、展望に飽きることがない。

昼食休憩に続き、頂上から北に広がる天狗ノ庭と呼ばれる花とりどりの大草原を散策した。しかし帰りの時間が気

山頂からの前岳・鬼ヶ面山



になり、程々であきらめて山頂に引き返し、往路を下山した。朝にも増しての濁流が渦巻く沢の渡渉に難渋し、登山口帰着は午後3時となった。